

# つむぐ



# むすぶ



# つなぐ



# 見つけた！ 豊田の遺産



豊田市立衣丘小学校  
6年 渡邊 暖花



# つむぐ・むすぶ・つなぐ 見つけた！豊田の遺産 目次

1、はじめに	- 1 -
2、日本遺産とは	- 2 -
2-1、日本遺産の考え方	- 2 -
2-2、日本遺産の認定まで	- 3 -
3、 <b>本当の</b> 日本遺産を訪ねる旅 - 3 -	
3-1、滋賀県 - シリアル型 -	- 3 -
3-2、岐阜市 - 地域型 -	- 11 -
4、いいとこ探し	- 22 -
4-1、豊田の意外はどこだ？	- 23 -
4-2、トヨタ自動車が母に来たわけ	- 26 -
4-3、自動車づくりは職人の手によつて作られた	- 28 -
4-4、地図で確認	- 29 -
4-5、まちなか散策	- 36 -
4-6、ちょっと足を延ばして	- 37 -
5、豊田の遺産を探して(まとめ)	- 43 -
できた！私が考える豊田の遺産	- 46 -

# 1、はじめに

私が住む愛知県豊田市。豊田市というと、世界の人は『トヨタ自動車の本社がある場所だ』と思つ人がほとんどです。でも、去年、調べる学習で豊田市の間伐材を調べ、豊田市にも私の知らない魅力がたくさんあることがわかりました。

私は『豊田市の知らない一面をもっと知りたい。そのためにはどんな方法があるだろうか?』と思いました。私は世界遺産が好きなのですが、世界遺産みたいなすごいものは豊田にあるのか? そう思って、豊田市郷土資料館に聞いたところ、学芸員の方に「日本遺産を知っていますか」と聞かれました。

「日本遺産? 何、それ?」  
その言葉に魅かれて日本遺産について調べてみました。どうやら2015年度から文化庁が始めたもの



文化庁のホームページによれば、『日本遺産(Japan Heritage)』は地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを『日本遺産(Japan Heritage)』として文化庁が認定するものです。』とあります。

豊田市には世界遺産になるようなものはまだ私は見つけられないけれど、日本遺産なら、私も探せるのかもしれない! まだまだ勉強不足だった私達に郷土資料館の方は日本遺産のことを説明してくれました。でも、やっぱりまだ分からぬ。もっと勉強しないといけません。

小学校最後の夏は私が生まれ育つ町、豊田市の日本遺産を探してみようと思いました。そして、豊田市の魅力再発見だ!

## 2、日本遺産とは

日本遺産の本を本屋さんや図書館に探しに行ってみました。でも、まだできただばかりのためか、どこにも置いてありません。おまけに4月の時点ではまだ本が出る予定もないといいます。やはり調べるには文化庁のホームページがいいみたいです。

世界遺産や国宝など、日本にもたくさんあるけれど、日本の中にはそのように何かの指定を受けていなくても、ぜひ訪ねてみたいと思うようなすてきな場所がたくさんあります。日本遺産は2020年までに国内に100か所の日本遺産の場所を作って、国内外に発信していきたいということです。2020年といえば、東京オリンピックが開さいされる年です。私は高校1年生にならうはず。あと4年しかないし、本気で準備しなければいけません。

### 2-1 日本遺産の考え方

日本遺産は地域に点在する文化財を把握して、それを一つのストーリーとしてパッケージ化するそうです。それをすることで、点在していた文化財は一つのまとまりとして、地域と結びついて、今のその地域の暮らしの背景も見えてくることになるようです。そして、国内外の人たちに今までお決まりだった、その町の印象を少し変えてくれることもできそうな予感がします。文化庁は「ひいては地方創生に大いに資するものとなる」といっています。ロゴマークもとてもかっこいいです。今回調べる学習にこうしてのせることを、母が文化庁に電話をかけてくれて問題ないということでした。



日本遺産のロゴマーク  
(文化庁ホームページより)

## 2-2 日本遺産の認定まで

日本遺産として認定されるには

- ①歴史的経緯や地域の風習に根ざし、世代を超えて受け継がれている伝承、風習などをふまえたものであること。
- ②ストーリーの中核には、地域の魅力として発信する明確なテーマを設定の上、建造物や遺跡・名勝地、祭りなど、地域に根差して継承保存がなされている文化財にまつわるものをすること。
- ③単に地域の歴史や文化財の価値を解説するだけのものはないこと。

(文化庁ホームページより引用)

とあります。そして、日本遺産は单一の市町村内でストーリーが完結する「地域型」と、複数の市町村にまたがってストーリーが完結する「シリアル型(ネットワーク型)」とあるのです。

日本遺産をよく知るには、認定された実際の日本遺産を訪ねるのが一番だと思ひ、実際に訪ねてみることにしました。

## 3 星~~本当の~~日本遺産を訪ねる旅

まずは、どこを訪ねるかという、場所決めです。これは私一人で決めることはできません。なぜなら、全てが県外で、車で連れて行ってもらわなければならぬので、家族の協力は不可欠だからです。母に相談したところ、シリアル型は滋賀県、地域型は岐阜市なら連れて行ってあげられるということになりました。さっそく、その二か所の日本遺産を勉強に取りかかりたいと思います。

### 3-1 滋賀県 - シリアル型 -

〈琵琶湖とその水辺景観 - 祈りとくらしの水遺産〉

滋賀県は豊田からは少し遠いので、ゴールデンウィークに1泊旅行で行くことにしました。そのためにストーリーを勉強します。ストーリーのがい要を読んでみたりけれど、書いてあること言いたいことが全然わからぬ！おまけにこの遺産は本当に滋賀県全体に点在していて、全部を回ることは難しいです。おまけに文章がたくさんでやっぱり分からぬこと分からぬことだらけになってしましました。そこで、資料にある、滋賀県教育委員会事務局文化財保護課記念物担当の方に聞いてみることにしました。インタビューをする前にあらかじめ日本遺産のパンフレットを送っていただきました。

【4月18日(月)】

①文化財保護課に電話取材

Q、どんなものを日本遺産に認定していますか。

A、今までにあるものを日本遺産と認定しています。

Q、滋賀県に行った時に看板はありますか。

A、国宝とか、重要文化財とか、認定していたものを日本遺産としているから、看板はありません。

今まであるものを新たに観光としてくり直しています。

Q、これから日本遺産をどうアピールしていきたいと思いますか。

A、これが日本遺産というものはないですが、文化財課は選定だけだから、それをどうアピールするかは観光の分野です。

⇒観光交流局を紹介してもらいました。

②観光交流局に電話取材

Q、半日コースとか、1日コースとかパンフレットにありますか。

A、まだ決まつばかりなので、準備中。モデルコースは地域ワークショップを開いています。議論をまとめていくところです。

Q、どうやって日本遺産をアピールしていく予定ですか。

A、日本遺産は文化財の物もあるが未指定のものもあります。文化財は文化財課が管理してくれるが、未指定のものは、観光交流局が管理していくきます。

日本遺産については、YouTubeにアップされているので見てほしい。あと、パンフレットを作ってWEBサイトでアピールしている。あと、観光雑誌で少し取り上げてもらっています。

Q、どうして日本遺産をやろうとしたのですか。

A、琵琶湖は日本の中だ。祈りが根付いている。それを県内各地の1つのストーリーとしてまとめた。

Q、ストーリーはどうやって作ったのですか。

A、県と市町の中でやり取りした。いろんな文化が根付いているようで、びわこビジターズビューローということは認定されたものをどう活用するかで動いている。

琵琶湖では水に神が宿ると考えている。比えい山天台宗に比べての琵琶湖は極楽のある場所としていたり、水を大切にする文化。実は琵琶湖はいろいろなところから水が流れてきて瀬田川から流れ出る以外は全て流れこんでいる川ばかり。そういう意味でも琵琶湖はすごい湖。湖の沖島も湖に浮かぶ島で日本唯一、人が住む島。湖も本当はたくさんのかな湖があったが、埋め立てられて今のあるのは西の湖のみになった。

Q、今回送っていたパンフレットに「福井、京都との「日本遺産ぐるっとマップ」というのがある。3県で協力することにした理由は。

A、昨年、平成27年に3県とも認定を受け、3府県がぐるっと回れるようになった。昨年京都じゅんかん道で環状道路になつて回れるようになつた。

電話を終えて、少し、日本遺産についてわかったような気がしました。私なりにまとめると、滋賀県の水遺産は

- ・水と暮らしの文化
- ・水と祈りの文化
- ・水と食の文化

と3部構成になっていて、人々の生活には水がとても関係が深く、大切だということです。それをいろいろな場所で感じてほしいということだと思いました。

今回は琵琶湖を1周することはできないので、琵琶湖の東側でそれぞれの分野から最低1か所は回ることにしました。

### 〈旅行プラン〉－滋賀県編－

- ①西の湖〈重要文化的景観〉
- ②沖島(水と暮らしの文化・水と食の文化)〈未指定〉
- ③伊崎寺(水と祈りの文化)〈未指定〉
- ④玄宮楽々園(水と暮らしの文化・水と食の文化)〈国名勝〉
- ⑤安土城跡
- ⑥近江八幡の水郷(水と暮らしの文化)〈重要文化的景観〉



#### ①西の湖〈重要文化的景観〉

琵琶湖の周りに昔はたくさん的小さい湖があったそうです。宇宙で言えば衛星です。今でも残っているのはこの先の西の湖だけです。



長命寺川付近にて撮影  
(撮影: 母)

実は、となりの写真は何か何だか分からず撮っています。この日は天気もすごく悪く風も強かったのですが走っていたら、橋が突然出てきたので急いで写真を撮りました。でも走らせていくうちに居る場所が西の湖に続いているところだと分か

りました。西の湖と琵琶湖をつなぐところでした。でも、このとおり、西の湖といいうのも地図を見ればわかるけど、実際に見ると、対面が見える湖というだけで天気も悪いせいか、湖と感じることができなかったのが残念でした。



西の湖  
(撮影、私)

## ② 沖島<未指定>

沖島は船で渡ります。10分程度の乗船です。



↑ 船から見る景色  
(撮影、私)

→ 船の中  
(撮影、私)



沖島に着きました。着くと沖島マップが出迎えてくれます。沖島は琵

琶湖の岸から1.5キロ離れたところに浮かぶ琵琶湖最大の島で唯一人が住んでいる島です。沖島の面積は $1.51 \text{ km}^2$ で私の住む愛知県の佐久島と比べると沖島の方が $0.3 \text{ km}^2$  小さいです。島の人口は約350人で、おどろくことに島に車が1台もありません。その代わりに、一家に一隻船があるそうです。島の中の移動は自転車で十分です。沖



島に行くための港には島民の人たちのための車庫があつて、島に車はないけれど港には車を持つついるそうです。

↓下りると沖島マップがある  
(撮影、私)



↑(撮影、私) ↓

島に着いて沖島マップを見ると次に目に入ったのは屋台です。そこで日本遺産のこあゆを食べました。こあゆは琵琶湖で獲れるあゆです。味付けがとてもおいしかったです。

港で下りた目の前の倉庫で、右の写真のこあゆを売っています。こあゆだけでなく、いろんなものを売っていました。

こあゆのつくだ君  
(撮影、私)

本当は料理屋さんでお昼ご飯を食べたかったのですが、お店が休みで食べることができませんでした。その理由は、しばらくしてからわかりました。私たちが沖島に行った5月3日はお祭りの日だったのです。だから、お店はお休みで、屋台しかなかったのです。



お祭りの様子  
(撮影:私)

私たちが乗った船にはたくさんの人が乗っていたのですが、その人々はお祭りに参加する人達もいました。

島の人たちがかついでいるおみこです。島の人たちがみんな参加していて、島全体の大切な行事なのだとと思いました。

### ③伊崎寺<未指定>



伊崎寺本堂  
(撮影:母)



本堂の裏側  
(撮影:母)

続いて伊崎寺です。左上の本堂の横をぐるっと回ると湖に張り出したさおのある、有名な場所に着きます。右上の写真は伊崎の先端に張り出した、さおです。伊崎寺はさおの上から水に飛び

入る荒行が有名です。下の写真は、まさに水に飛び込もうとしているところです。



伊崎寺ホームページより

伊崎寺は天台宗のお寺です。琵琶湖のちょうど反対側に延暦寺もあって、琵琶湖の周りにはお寺がたくさんあることが分かります。滋賀県のお寺は水の信こうと深く結びついだ寺が多いのです。

伊崎寺ホームページより

#### ④玄宮楽々園〈国名勝〉



(撮影、母)



(撮影、私)

上の写真は、彦根城付近の商店街の歩道にあった、あゆがモチーフにされた歩道の石です。ここでも、こあゆが滋賀県にとって大切なものですと分かります。

次に玄宮樂々園です。玄宮樂々園は、彦根城の隣にある別荘のような場所です。お客様を招く場所でもあり、池泉回遊式庭園で、池は城下町の湧水を外堀から導水し、小島の岩間から水を落として滝に仕立ててなど、水を巧みに取り入れた芸術的な景観です。多くの観光客の方が写真を撮っていたこの場所からは彦根城も見えるので、ここに招待された彦根藩のお客さんはとても喜んだと思します。日本遺産では、水と暮らしの文化に登録されています。



(撮影母)

この場所は、どこかで見たことがある風景だと思います。日本遺産の近江八幡の水郷です。晴れた日は船に乗って水郷巡りができます。豊かな水を大切にする暮らしを巡るということで、水と暮らしの文化になっています。ここは、テレビ番組のロケ地によく使われます。わたしのイメージでは、古くてすてきな建物がたくさんあるので、江戸時代のロケなどに使われそうですね。

### 〈感想〉

滋賀県の日本遺産を回ってみると、確かにどこの風景にも水がある、その水は琵琶湖の恵みの水でした。今までにも滋賀県には来たことがあるけれど、滋賀県の日本遺産を勉強してから滋賀の観光地を回るといつの間にか琵琶湖との結びつきを意識して、家族と会話も弾みました。

### 3-2 岐阜市 - 地域型 -

#### 「信長公のおもてなし」が息づく戦国城下町・岐阜

岐阜市は比較的近いので、日帰りです。事前勉強と思って滋賀県同様、前もって電話をかけたところ、「直接お話ししますので、ぜひお越しください」と言ってくれました。市役所に行きたいけれど、平日しかやっていないし、学校が終わってからでは間に合いません。学校が代休の月曜日に行くことにしました。

#### 〈旅行プラン〉 -岐阜市編-

①岐阜市教育委員会社会教育課訪問

②長良川沿いを散策  
鵜匠家 <文化的景観重要な構成要素>  
鮎供養 <未指定>



長良川鵜飼用具  
(長良川うかいミュージアム)〈国重要無形民俗文化財〉

③長良川中流域における岐阜の文化的景観(すざんからの景観)  
〈国重要文化的景観〉

④正法寺(岐阜大仏)

⑤善行寺〈未指定〉

⑥伊奈波神社〈未指定〉

⑦後楽荘〈文化的景観重要な構成要素〉

⑧岐阜城〈国史跡〉

⑨川原町のまちなみ〈文化的景観重要な構成要素〉

⑩岐阜団扇〈未指定〉



【5月30日(月)】

①岐阜市教育委員会社会教育課訪問



岐阜市教育委員会社会教育課の  
高橋さん (撮影、母)

岐阜市教育委員会社会教育課では、  
日本遺産を担当した高橋さんに直接お  
話を聞くことができました。

日本遺産に認定されるまでとても  
長い時間がかかっていて、一生懸命調  
べたことが日本遺産の形になっている  
のだと、わかりました。

Q. 日本遺産の資料を見ると、地域型のBで申請されています。Bというのはど  
ういうことなのでしょうか。

A. 日本遺産はA～Eのタイプがあり、岐阜市の歴史的なものをどうやって守って  
いこうかと考えていた。

Aは歴史文化基本構想

## B是歷史的風致維持向上計畫

Cは世界遺産を1つでも持っているところ

Dは世界遺産さん定(さん定一覧表にのっているところ)

Eは世界遺産の「暫定候補」(暫定一覧表の候補)にのっているところ)

岐阜市が考えていたことは、Bの歴史的風致維持向上計画。岐阜市がやっていたことと日本遺産と合致していた。

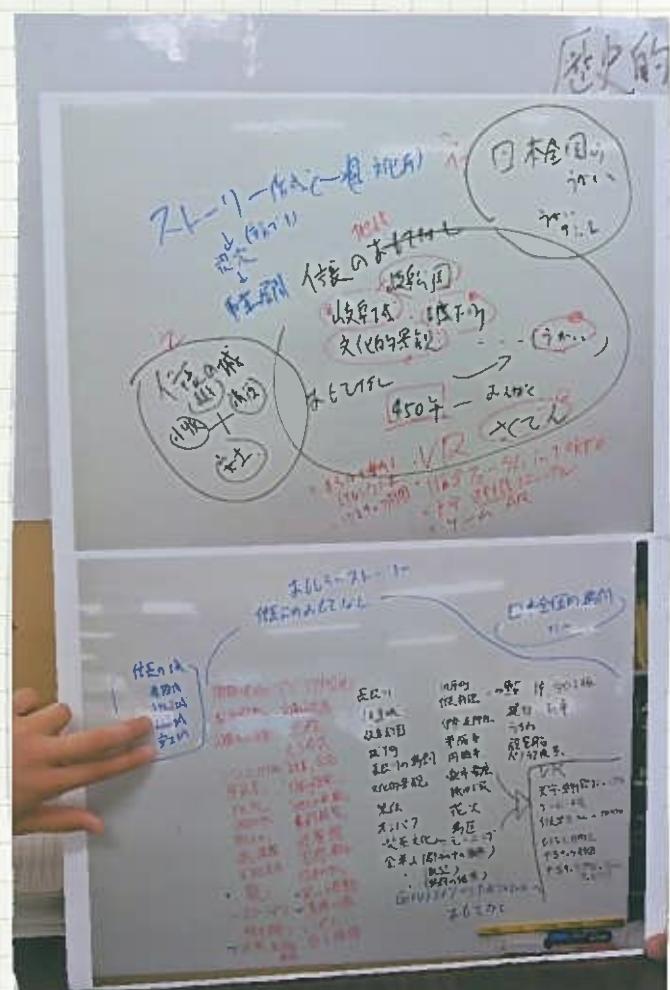
Q、なぜ「日本遺産」をやろうと思ったのですか。

A、平成22年すでに岐阜市のタイトルにある「おもてなし」というキーワードは出てきていた。実は信長がやっていた事が、今の岐阜市の観光の基礎になっている。信長が岐阜で何をやっていたのかを調べた上でストーリーを作った。



(摄影、母)

その時にどうやってストーリーを作ったのか見せてもらいました。



(摄影母)

Q、なぜシリアル型ではなく、地域型にしたのですか。

A、鵜飼や信長でまとめる事はできるけれど、それはもうみんな知っている。「外国人受けするか?」と「みじなが知らない岐阜」という、今まで持っていない着眼点であったり、みじなが知らないストーリーを岐阜市で考えた。信長は“とてもこわい人”と、世の中では知られている。でも実は信長はお客様が岐阜に来たら、鵜飼などいろいろなもので“おもしり”をした。ルイス・フロイズは自分の書物にそのことを書き記している。日本人の知らない信長を日本人にも知らうたいと思った。

Q日本遺産はストーリーが大切だと思いますが、それはどのように考えたのですか。

A、価値がどのようにあるのか鵜飼をナラティブ(語り)にする、というのと信長のおもてなしとどのようにつなげるのかに時間を使った。信長はお客様に鵜飼を見せたと思われる。また文化財に指定されていないものをどうピックアップするかも課題だった。例えば鵜飼を見ながら芸者さんに踊らてもらうのは、おもてなしだけど何か文化財に指定されているわけじゃない。でも、こういうものもおもてなし。そういうものを含めて、今までやってきたことを「おもしり」という視点で見直すとした。岐阜市はやってきた調査をおもてなしとつなげようと考えた。

Q、日本遺産をどう活用していくかと思いますか。

A、信長が岐阜に来て450年経つ。信長の町、岐阜というのをアピールしていく。日本遺産に登録してもらって、まっぷるを作っている出版社に3万冊「まっぷる岐阜」を作ってもらつた。日本遺産は一度登録されても、追加登録ができる。お土産品もおもてなしだし、今年岐阜大仏も追加した。岐阜大仏は和紙と竹だけでできたもの。

Q.日本遺産をどう管理していくのですか。

A.管理は一元化(1つのところだけがやる)されるわけではなく、社会教育課や観光課、直接寺や神社にお願いしているものもある。今までは文化財になら守って保存だが、今は活用の時代。地方創生につなげていきたい。



(撮影・母)

インタビューが終わるとすぐに日本遺産に関連した業者の方がみえて、打ち合わせが始まりました。とても忙しい中、私のために時間を作ってくれたさつありがとうございました。

## ②長良川沿いを散策



↑(撮影・私)

私たちは岐阜市教育委員会をあとにすると長良川沿いで昼食を摂ることにしました。鵜匠さんがやっている食事処があるというので、来てみましたが、その日は、お休みの日で、やっていたので、そのあたりを少し散策しました。



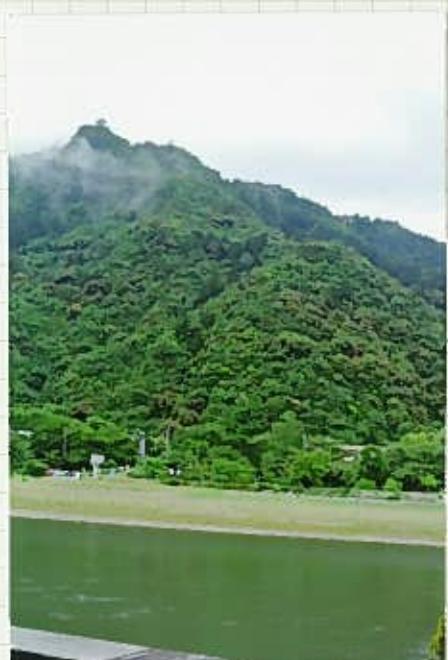
長良川沿いの少し奥に入ると、鵜匠さんの家がこの写真のようになります。鵜匠さんの家は数件しかなく、そここの男の人が代々引き

継いでいくとなっています。ありがたいことに男の子が途絶えることなく今に至っているそうです。



↑(撮影・私)↓

これは、水門です。青い門のところには陸閘(りっこう)と書かれています。目の前に長良川があるため、雨などによって川が決壊した時にしばらくの間、陸側に水の浸入を防ぐために水門が置かれています。



この左の写真は、鵜匠の一人の杉山さんの親せきがやっている、“鵜匠の家すぎ山”というお店からとった写真です。金華山と岐阜城、手前には長良川という絶景ポイントですが、あいにくの天気で残念でした。

下の写真はすぎ山の中にかざってあった鵜匠の持ち物や着るものです。鵜匠はこれを身につけ、鵜餌の仕事に行きます。



↑  
(撮影・私)  
↓





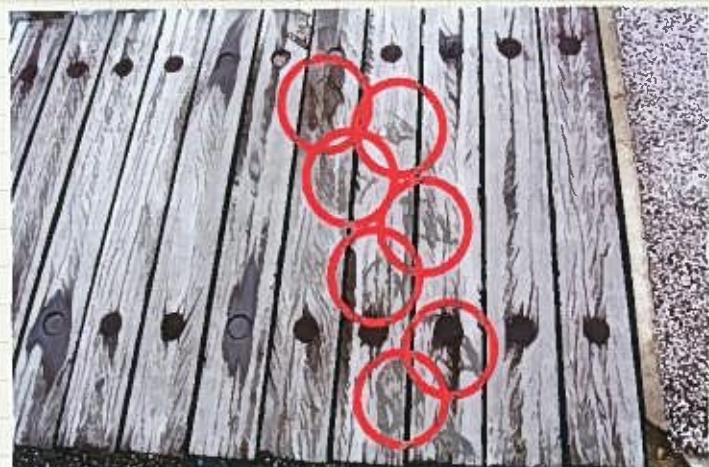
左の写真は“長良川観光ホテル石釜”的誰でも自由に利用できる足湯です。でも、私が行ったときは天気が悪くてや、ついになかったので、手だけつけてみました。少し熱かったです。

(撮影、母)

下の二枚の写真は、すき山の近くにある神明神社です。すき山から歩いて、1~2分のところにあります。



(撮影、母)



(撮影 私)

これは、鶴の足跡を刻印したもののです。刻印をどうやって、やったかは知りませんが、とてもきれいな足跡が残っていると思いました。



このガラス箱の中にいる鶴は、もう死くなってしまった鶴で、その弟鶴をはく製にしたものです。

(撮影 母)

左下の写真は岐阜市のホテルや旅館の人達が信長おもてなし御膳を復元したものだそうです。昔の書物や岐阜にある食材から料理長さんたちが苦労して復元したものだそうです。予約が必要な御膳だったので、食べることができず、せめて鶴飼の長良川に来た記念に天然鮎を食べることにしました。右下の写真は私が長良川の鮎占塩焼を食べているところです



信長おもてなし御膳 ホームページより



(撮影母 (すき山にて))



(撮影母)

ここは、岐阜市長良川鶴飼伝承食館、長良川うかいミュージアムです。ここでは鶴匠さんが代々受け継がれていくものであり、鶴の生態、鶴飼の歴史やかがり火トネルなど長良川の鶴飼を理解する場がたくさんありました。



↑(撮影・私)↓

これは、岐阜県指定重要文化財の正法寺の岐阜大仏です。高さは 13.7m で、乾漆大仏としては日本一です。今年日本遺産に追加されました。



左の写真は岐阜県善光寺です。山科 言継は岐阜滞在中に二度もお参りに訪れたといわれています。

↑(撮影・私)↓



ここは、伊奈波神社です。1900年以上の歴史を持つ古社です。



ここは、後楽荘です。600坪にも及ぶ広大な日本庭園を誇る料理旅館で、当時使われていた茶室も現存しています。ですが私達が行ったときは定休日だったので、玄関先で写真をとることにしました。



このバスは、岐阜城と信長が描かれたバスで、車で走っている時に見つけて急いで写真をとりました。変わったバスでとてもおもしろくて、乗ってみたいと思いました。



(撮影・私)

ここは、川原町の昔ながらのまちなみです。川原町は、長良川の水運が盛んだったことから、商業の拠点としてにぎわいを見せていきました。通りには格子

戸が残る町家が軒を連ねていて、ノスタルジックな雰囲気に入たれるエリアです。この景色の反対側には鶴舎の事務所があります。小さい頃、私も夜の鶴に来たことがあるのですが、残念ながら、私に記憶はありません。

ません。



↑(撮影母)↓



ここは、玉井屋本舗です。ここでは和菓子などを作っています。

この写真の左手には鵜飼観覧船事務所があるので、鵜飼を見る前や見たあとに寄りやすい場所にあります。明治41年に創業した老舗和菓子店で名物の登り鮎はおいしかったです。そして、しばらく夏の雰囲気が味わえるということで、干菓子も買いました。

下のたくさん並んでいるものは住井富次郎商店の岐阜県郷土工芸品の岐阜うちわです。岐阜うちわには2種類あって下の写真は涼しげな水うちわで私がここで買ったものは上品な色合いの塗りうちわです。



←(撮影私)→



すき通ったう  
ちわが持ち  
よげす。

千代目が受け継ぐその技は、お店の奥にある作業場で見学することができます。1本の竹節から土台の骨を作る独自の職人技にも注目です。実は、訪問した当日、「日本遺産に登録されますよね?」と聞いたところ、ご主人はそのことを知りませんでした。昨年度岐阜市は日本遺産に登録されましたか、岐阜うちわは今年度、追加登録されて、私たちも午前中に訪ねた岐阜教育委員会で聞いたらばかりでした。日本遺産に登録されたことを私たちから聞いたご主人はとてもおどろいていました。

### 〈感想〉

岐阜の日本遺産は教育委員会に行って、とても丁寧に教えていたたくことができました。やはり会って、その場で教えてもらえるということはとても大切なことです。そして、日本遺産を教育委員会の人達が考えている間に、信長のおもてなし御膳は、料理人の人達が考え、同時にいろいろなことが進められているということがわかりました。そして、みんなで協力して岐阜を盛り上げていこうと考えて、行動しているのだと思いました。日本遺産の旅をした私は、信長の印象もプラスされて、信長の優しい一面を知ることができました。

### 十、いいとこ探し(場所の番号は日本遺産豊田) (版の番号と一緒に)

滋賀や岐阜の日本遺産を訪ねて思ったことは、地域を活性化させていくには、すでにみんなが知っているお話しではなくて、意外性があり、みんながまだ知らないお話題に着目をして、それをみんなが興味を持つるように紹介することが大切なのはないかということです。豊田市はどういうに豊田市を紹介して、アピールしていくかと思正在するのでしょうか。

## 4-1、豊田の意外性はどこだ？

まず、私は豊田市の文化財の一覧を見てみました。豊田市には徳川家康発祥の地松平があり、ゆかりの寺院があつたり、彫刻があります。それに、猿投をはじめとする棒の手、小原には小原歌舞伎、小原和紙などがあります。しかし、改めてみると、豊田市には国宝がありません。また、国指定の重要文化財も豊田市ではなくて東京にあるものもあることがわかりました。古墳などの史跡もあるけれど、その当時の生活はわかるものの、誰の古墳とか、その時代を思い浮かべてもうえるようなストーリーは今の私には浮かびません。私はどうしたら、「豊田市、てそんな話があったの？」と思ってもらえるようなものを見つけられるのか悩んでしまいました。

豊田市観光協会にも訪ねてみましたが、私が疑問に思っていたバラバラに見える文化財はやはり観光協会でもまとめるることはできおらず、「これから徐々にやっていく作業です」との答えでした。何かひらめくものはないかと、郷土資料館、棒の手会館やくらし発見館を見学したりしているうちに、くらし発見館の学芸員さんから「当時の中村寿一町長がトヨタ自動車を豊田市に誘致した」という話を聞くことができました。中村寿一って誰？生まれてからずっと豊田市に住んでいる母に聞いても「名前は聞いたことがあるけれど、あまり知らない」とのこと。中村さんがやったことをちょっと調べてみよう。アニメの中村寿一物語という映像も無料サイトにあって覗いてみると、中村寿一町長が豊田の礎を作ったのではないかと思えてきました。



YouTubeにある  
中村寿一物語

やはりもう一度、豊田市の歴史をもう一度読み返そう。「豊田市のあゆみ」を読んでいると、トヨタ自動車(当時はトヨタ自動車工業という会社名)が来る前の前の挙母町は養蚕などの産業が盛んだったということです。昔からトヨタ自動車があるわけではなくて、始まりがあったはず。こういうことは、私には分かっていたようで、分かっていなかったことです。また、“豊田市近代の産業とくらし発見館”に行くと昔挙母町は養蚕に力を入れていたということを再確認することができました。養蚕から自動車へ？それはいつ？どうしてそういうことになったの？そこで、養蚕から自動車へ変わっていく年表を作ってみました。

く今 の 豊 田 市 に な っ た 関 係 年 表 >

西暦	年号	出来事			
		世の中の流れ	市	養蚕	トヨタ自動車
1886	明治19			東・西加茂の行き糸生産 高は愛知県全体の2.1%を 占める	
1895	明治28	矢作川水系の岩津水力発 電所ができる		明治20年代養蚕が盛んに なってくる	
1896	明治29			吉田製糸場をきっかけに 20~100人という大規模な 製糸工場が挙母町に創設	
1905	明治38	日露戦争終わり		日露戦争後、愛知県の生 糸生産は全国4位	
				大正時代、挙母町には約 10の製糸工場があった	
1917	大正6			加茂製糸所が創業する	
1920	大正9	三河鉄道 知立~挙母間開通			
1921	大正10			愛知県蚕業取締所第九支 所が新築される	
1929	昭和4	世界恐慌	挙母町長に中村寿一がなれる		
1930	昭和5	蚕糸恐慌			
1931	昭和6		衣ヶ原飛行場の地鎮祭が 行われる		
1933	昭和8				工場用地あっせんを依頼
1935	昭和10		衣ヶ原飛行場の設置が許 可される 工場用地の買収が完了	西加茂郡の製糸工場が63 から12に激減	
1937	昭和12		町営飛行場挙母号購入 出征兵士見送り飛行中に つい落		トヨタ自動車工業が設立 工場しゅん工式
1938	昭和13	三河鉄道豊田駅新設	飛行場が軍の管理下にな る		挙母工場操業開始
1939	昭和14		飛行場をトヨタ自動車が利 用する		
1942	昭和17		衣ヶ原飛行場閉場式		
1945	昭和20	第二次世界大戦終戦			
1946	昭和21		挙母町長に渡辺鉄吉がな る	東西加茂郡の産繭量が落 ち込む	
1949	昭和24			繭・生糸の本格的製糸業 復活	
1951	昭和26		挙母町から挙母市になる 初代市長に渡辺鉄吉がな る		
	昭和30年 代	日本の産業構造が重化学 工場への移行し始める (神武景気)		労働力不足が大きな課題 となり、県下13工場のうち、5工場となる そのうち一番大きいのは 挙母の加茂蚕糸	
1955	昭和30		挙母市長に中村寿一がな る		
1956	昭和31		挙母市長に長坂貞一がな る		
1958	昭和33		挙母市から豊田市になる		衣ヶ原飛行場跡に元町工 場を作る
1981	昭和56			加茂蚕糸操業停止	
1985	昭和60			加茂蚕糸跡に産業文化セ ンターが開館	

調べてみたら、年表は思ったよりたくさんになりました。そしてトヨタ自動車は偶然来たのではないことも少しずつ分かってきました。当時世の中は世界恐慌で日本もその影響を受けていて、桑名恐慌になり、挙母町は名前にからめて「破れこうも(挙母)」と言われるほどになってしまった、たとえます。衣ヶ原飛行場の話は町長にとって、とてもよい話だったに違いありません。そして、豊田自動織機自動車部の工場移転を知った中村寿一は挙母町に来てほしいと直接豊田喜一郎にお願いしに行つたという話です。でも、候補は他にもあって、刈谷から近い、知多郡大高町(現在の名古屋市緑区大高)、知多郡東浦町、西加茂郡挙母町(現在の豊田市)が候補にあがっていたそうです。その中でも挙母町にトヨタ自動車が来たのには、4つの理由があります。その理由を探るためにトヨタ会館(豊田版⑩)に向かいました。

#### 4-2、トヨタ自動車が挙母に来たわけ

##### ☆トヨタ自動車が挙母町に来たわけ

- 1、論地ヶ原と呼ばれる広大で不毛の原野があり、低価格で60万坪に及ぶ用地があった
- 2、三河鉄道(今の名鉄三河線)を利用して、生産用設備、資材の輸送が可能であった。さらに建設に適した強固な地盤があり、良質・豊富な地下水(矢作川の伏流水)で利用できた。
- 3、矢作川水系の水力発電による電源が豊富で、割安な電力を矢作水力から受電可能であった。
- 4、土橋に建設される衣ヶ原飛行場は飛行機事業に好都合であった



トヨタ会館でトヨタ自動車  
が豊田市に来た理由を聞く  
撮影、母



(撮影:私)

本当に挙母町にはトヨタ自動車が移転してくる条件が整っていました。トヨタ自動車は工場のために大切な耕地をつぶしてはならないという条件を作っていました。1の条件の論地ヶ原は枝下用水より高台にあって、水が上の方に来ないので、本当に荒れ地で耕すことができないほどに地盤が固かったのです。工場を建てるには固い地盤がよかつたのです。2の鉄道のことは、江戸時代から矢作川などを使って飯田からの商品が矢作川を使って運ばれていたことが関係します。矢作川の筏流しを流通の手段としていましたが、もっと確実にたくさん運ぶために鉄道を引きたいと思っていたのです。矢作川は時々川が氾濫して困ってしまうくらいに水量は豊富でした。そして、3は時代の流れもあり、水力発電ができ始めました。矢作川には平戸橋の上流の越戸水力発電所がありますが、挙母町のとなりの松平町ではがう紡と呼ばれる織維産業が盛んで、中部電力が一番古い水力発電所になる岩津水力発電所が郡界川にてきました。最後に4は、熊崎惣二郎という起業家が挙母から土橋の間の11万坪を購入して飛行場を建設、中村町長も挙母町の防空思想の普及を図るために町民の寄付で購入していました。1から4まで全て出来た時期も何のために作ったかも違うけれど、それは全トヨタ自動車が挙母に来る理由になったのでした。

けれど、この中には大切なことがあります。それは論地ヶ原の地主さんが協力してくれたことです。60万坪はどのくらいの広さか全く想像がつかないけど、ナゴヤドームが約3万坪なので、トヨタ自動車の挙母工場はナゴヤドーム約20個分ということになります。それだけの広さなので

地主さんもたくさんいて182人いたということです。その人達を説得してトヨタ自動車のための土地を用意したのです。

4-3、自動車づくりは職人の手によって作られた  
でも自動車の工場ができるだけでは、工場は動きません。そこで働く  
人が必要です。トヨタ自動車の豊田市役所が操業開始したのは昭和  
13年です。その前には豊田市全土で養蚕が盛  
んでいた。昭和4年に世界恐慌があって、昭和5年には蚕糸恐慌にな  
っています。トヨタ自動車を誘致した中村寿一豊田町長が町長になっ  
たのは世界恐慌の昭和4年でした。だから町長は豊田町に産業が  
欲しい、仕事が欲しいと思ったのだと思います。そして、養蚕農家のの人達の  
蚕を育てる、生糸を育てる職人魂を今度は自動車づくりに向けていって  
ほしいと思ったのだと思います。こういうことを豊田喜一郎社長と話した  
かは分からぬけれど、豊田市役所の前に中村寿一氏と豊田喜一郎社  
長の銅像がとなり同士に置かれています。(豊田版⑧)



豊田市役所の前にある銅像 撮影.母

そして、蚕糸恐慌で養蚕農家  
が次々と辞めていく中、製糸工場  
で豊田市の中にある加茂蚕  
糸はなんと昭和56年まで続い  
ていました。蚕糸恐慌で製糸工  
場はどんどん減っていって終戦  
で製糸は一旦終わりかと思  
っていました。

その頃食糧不足だったため、蚕用の桑畑をつぶして、食糧  
用耕地に転換する指示を政府が出しました。でも、GHQがその後す  
ぐに訂正して、蚕糸生産を平常に戻しました。GHQに養蚕は助けられ  
たということになります。豊田地区だけでなく、いたるところが桑畑だら  
けだったのです。

## 4-4、地図で確認

### ア、加茂蚕糸を確認（産業文化センター）（豊田版①）

加茂蚕糸というのは昭和56年まであったということで、その頃、私の母はもう豊田市で生まれていて小学校低学年です。でも、聞いても何も覚えていないということです。当時の写真や今の地図と照らし合わせて何とか昔と今をつなぎ合わせたいと思います。

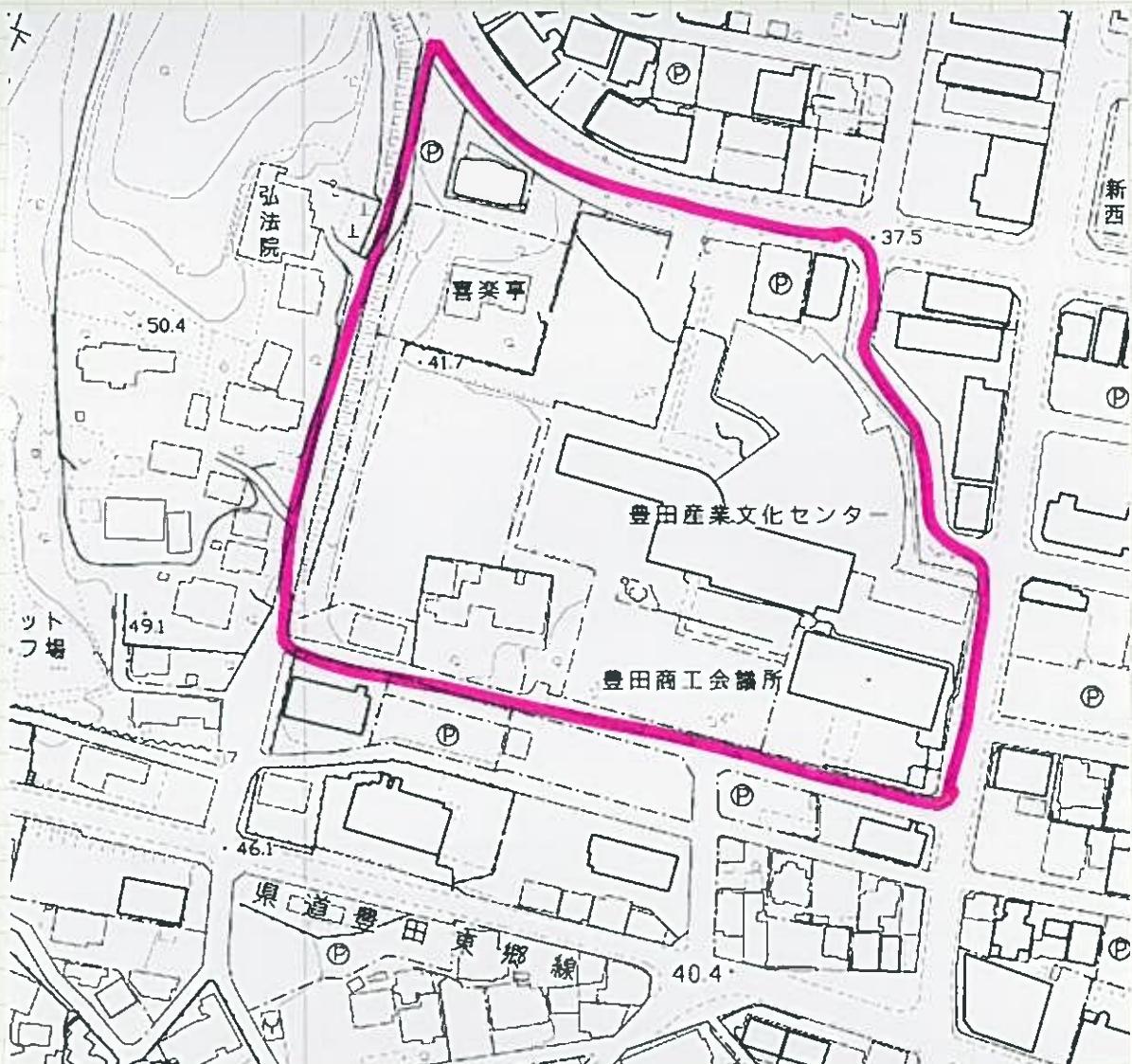


▲加茂蚕糸の工場

加茂蚕糸の様子  
(昭和何年ごろかは  
不明  
豊田市のあゆみより)

まん中にえん突があ  
ってそれがシンボルに  
なっています。これは  
南側からとった写真  
だと思われます。そ

れが分かるのは次ページの今の豊田市の地図からです。私もよく歩いて  
通る道なので、よくわかります。お寺とかもそのままあるので、豊田  
産業文化センターの場所に加茂蚕糸があったのだと思われます。



豊田市の基本図  
豊田市役所ホームページの豊田市基本図から



(撮影、母)

右の建物が商工  
会議所で、左  
が産業文化セン  
ター



←撮影、母→



産業文化センターの中には加茂蚕糸の木下信翁の銅像(豊田版②)が立っています。銅像には「今二十より、先四十」という言葉が刻まれています。目先の二十に走って、先代の四十を失うという意味です。無欲の欲を忘れてはいけない。という意味です。そして、今でも加茂蚕糸が農協に入ってからの「加茂蚕糸販売農業共同組合連合会」という門柱(豊田版⑤)がその近くにはあります。



そして、門柱の奥には加茂神社という神社(豊田版④)があります。加茂蚕糸さんの神社で今でも毎年4月にはみんなでおまつりをするのです。

(撮影、母)

昔の加茂蚕糸の工場があった写真からも左下に家みたいなところがあるのがわかると思いますが、今もその家はあります。表札には「木下」とあります。今は孫にあたる矢野さんが住んでいますが、玄関にある桑の木の写真を撮らせてほしいとお願いしたところ、中の土蔵も見せていただくことができました。一般公開していないところなので、ものすごくラッキーです。この土蔵は繭を乾かすための土蔵ということです。写真の右側にある桑の木は外から見ると、とても大きい木だということが分かります。



→撮影母)



今住む母屋のとなりには書院があります。ここは、加茂蚕糸の工場をやっていたとき、仕事の話をする時に使った場所だそうです。

玄関の門のところにある、桑の木はシンボルツリーだそうです。樹齢もどのくらいかわからぬけれど、幹の部分を見るとずい分古い木だと言つことがわかります。今年姉が蚕を食っていたけれど、この桑の葉はとても肉厚で、この葉を蚕が食べたら、とてもいい糸を吐くだろうなと思いました。



←(撮影母)



幹を拡大するとこんな感じ

また、豊田産業文化センターの中には神明町から移築された「喜楽亭」(豊田版③)があります。加茂蚕糸さんの住み込み寮の跡に移築されました。ここは料理旅館だったところで、戦前は養蚕関係者が、戦後は自動車関係者の方が利用されたそうです。

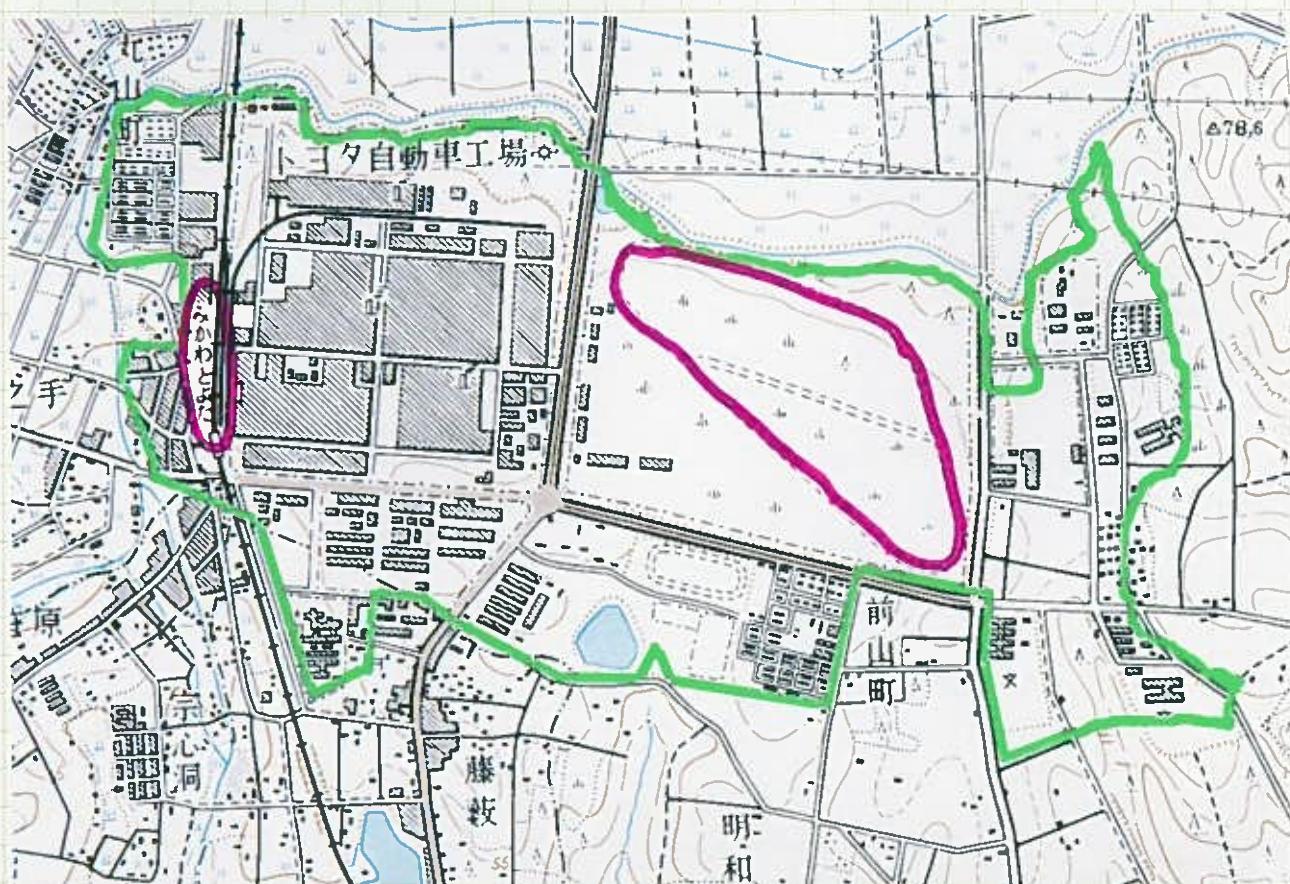


(国の登録有形文化財)

←(撮影私)

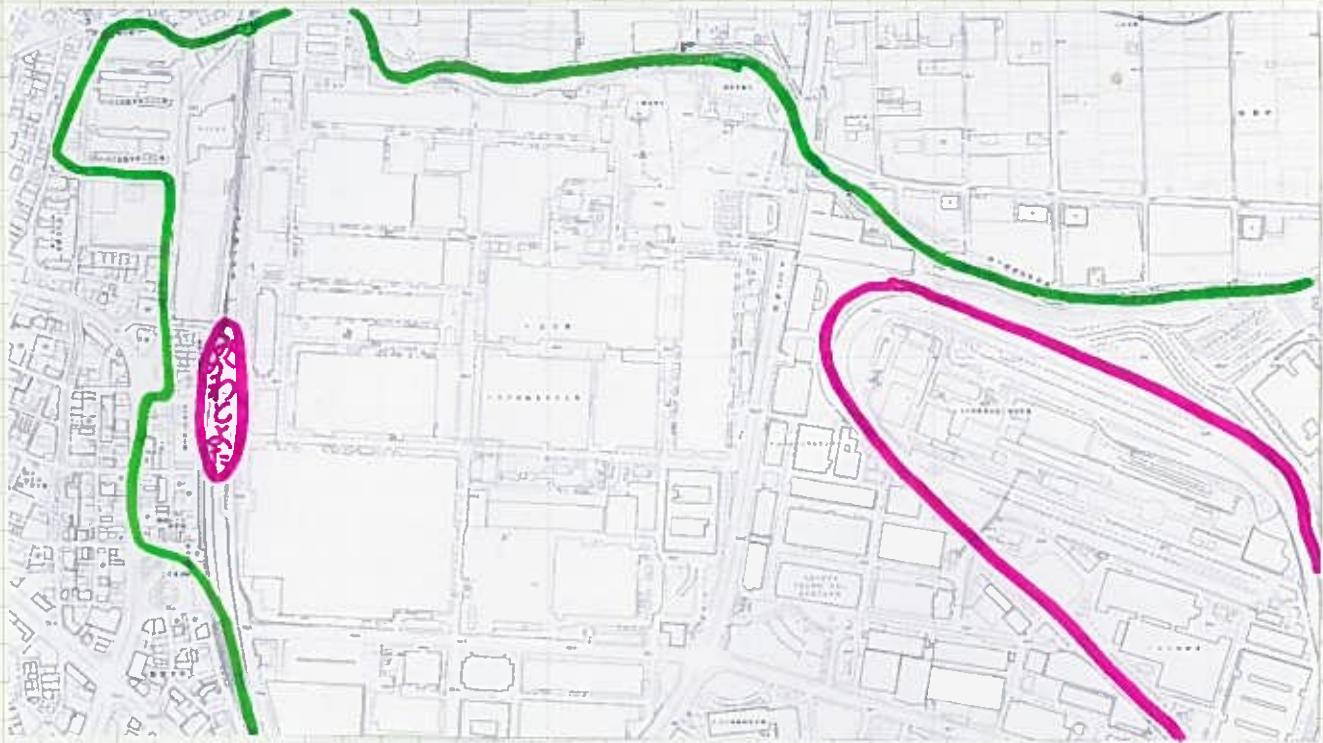
## イ、トヨタ自動車を確認

私が知っている限り、昔から、トヨタ自動車は国道248号線の両際に建っています。そこに何か変化があるとは思えません。



豊母工場用地買収区域がい要  
(1962年「豊田南部」の地形図に準キョウ  
トヨタ自動車ホームページより)

しかし、地図で確かめると、本社工場だけがあり、今会社が建っているところは荒れ地の地図記号になっています。この地図からも本当にトヨタ自動車の場所は荒れ地だったのだとわかります。



豊田市の基本図  
豊田市役所ホームページの豊田市基本図から

上の地図は平成25年の基本図です。本社工場(豊田版⑨)はそのままの場所であることがわかります。その代わり、となりの荒れ地だったところにテニスコートができたり、新しい会社のビルが建っていることがわかります。やはり道路はそのまま変わらないで、照らし合わせるのもわかりやすかったです。



(撮影、母)

トヨタ町と書いてある信号機。  
手前の「トヨタ」のマークは旧本館で右となりは新しい本社。

旧本館。私の母が小さい頃はこの建物が本社だった。



(撮影、母)

#### 4-5、まちなか散策

街中を歩いていると、養蚕が盛んだったという形が少しずつ見つかります。

ウ、豊田市近代の産業とくらし発見館(国の登録文化財)(豊田版⑥)



(撮影、母)

ここは李母町で初めての蚕業取締所です。大正2年にできました。蚕の病気の検査や研究をするためにできた施設だそうです。今の建物は大正10年に鉄筋コンクリートに建て替えたもので、旧愛知県蚕業取締所第九支所として当時は活躍していました。中に入ると、せんい業が盛んだった頃の道具がたくさん展示しています。

養蚕をやっていた頃の道具や蚕を育てる様子の模型、加茂蚕糸の当時の工場の様



↓(撮影、母)↓



私も写真展示してあります。またガラ紡で使った本物の水車などが展示してあって、毎年、長野から蚕の卵を買って、本当に蚕を育っています。また、挙母町営の飛行場のジオラマ展示もしてあります。



△(撮影母)↑

### 工、まちなかの桑の木(豊田版⑦)

くらし発見館では“ぶらころも”という企画をしていて、町の中なのに立派な桑の木があることを紹介してくれています。ある場所は銀行のとなりの小さな路地です。名鉄豊田市駅からまっすぐ歩いて国道沿いにホツンとありますが、こんな町中でも桑畠だった名残りでしょうか。

(撮影母)○



### 4-6、ちょっと足を延ばして

豊田市駅周辺から少し離れるとまだせんい業の跡が残っています。製糸工場が豊田市からなくなってしまったので、養蚕農家さんはなくなりました。しかし、松平地区にはまだ職人の魂を継いで営業している工場もあります。そして、少し足を延ばせば、まだ今の豊田市になった足がかりのものが残っているのです。

### 木、郡界川沿いの桂野町(豊田版⑬)



(撮影、母) 郡界川にて

紡績はきれいな水が必要だったそうです。豊田市では、矢作川水系の郡界川流域で、臥雲辰致開発の紡績機でガチャ万景気が来ました。最盛期には松平地区全域で300軒も工場があったそうです。「近代化遺産探訪案内(2007)」には桂野町でも紡績会社が残っていると言つことでしたが、2016年、この夏にはもう一軒も残っていませんでした。この橋の近くの畠のおじいさんに話を聞くと、「残っていた紡績会社もプラスチック会社に変わってしまった」とのこと。私の橋の背後はとなりの岡崎市側ですが、岡崎市側で一軒だけ残っていました。きっと豊田市側でもこのような工場があったのだろうと思って、写真を撮りました。



(撮影、母)

力、滝川の大内町(紫田紡績)(豊田版⑪)

再び近代化遺産探訪案内(2007)にのついる場所を求めて今度は国道301号線沿いを走ります。やはり、川が流れているし、川沿いにずっと家があるので見つけられそうな予感です。



写真を撮ろうと思ったら、家の方に会い、写真を撮りたいと話をしたら、詳しく話してくださいとのことでした。これまたラッキーです。

(撮影、母)

話を聞いた母屋は昔従業員さんが寝泊りもした家です。この家は昭和7年築だそうです。

### 〈柴田さんのお話〉

- ・昔、豊田市は「1に紡維、2に工業」と言われていた。がチャ万景気と言われた時期もあったが、今ではこう邊でやっているのは、うちだけになってしまった。
- ・工場はガラ紡の時のままの建物。今は中の機械は変わっているが、今は紡績ではなく、特殊紡績と言う。子ども会とかの古着を細かくして、軍手を作るための糸にしている。リサイクルをやっているんだから、せんいの最先端。
- ・昔はとなりの川から水を取って作業をしていた。自分たちでえん堤を作るが、国も水利権があるので、權利のお金払っていた。昔は、自給自足だったから、紡績業や鍋やさんくらいしか、お金を払える人がいなかった。
- ・うちもあと3年で100年。しかし、国道のバイパス工事でトンネルの出口がちょうどうちの上に来るという。今は話し合いをしている。あと3年は持たないだろう。せめてえん堤くらいは残したい。



(撮影、母)

工場内も無理言って見せていただくことができました。本当にありがとうございます。



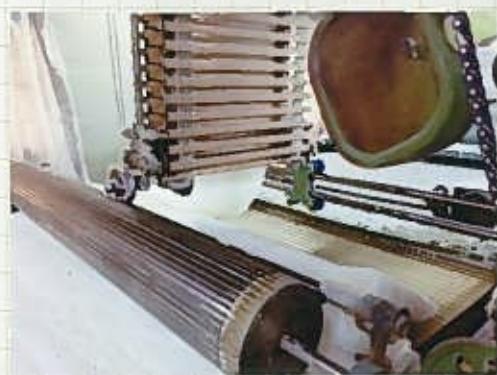
わたをためておく場所



わたを吸いとる場所



この機械でふわふわのわたは  
平らにゅうたになる



平らになつたわたは秘密の機械で  
えのようになんくくなる

このように細い糸にしていろ  
これがちいすつ元

これでちいすを作つていろ

(撮影母)



工程を見せてもらって、大変な仕事だけれど、やりがいのある仕事だと思いました。そして、もうすぐ100年という話にもびっくりしましたが、それがもうすぐなくなるかもしれないという話にショックでした。桂野町に行つた後に大内町に来てついたので、本当に時間の問題でこうした地場産業は消えてしまつしまうのかと思うと、こういう建物を大切に残していくことも必要だと思いました。柴田さんは「豊田市史にこの建物は書面上は残るから」とおっしゃつていましたが、私は、道具でない、建物自体が残ることも大切ではないかと思いました。

## キ、足助資料館(足助町、足助中学校すぐ下)(豊田版⑭)



(全て撮影、母)

今は足助城からの出土品が展示されている足助資料館は、くらし発見館と同じ、旧愛知県蚕業取締所第四支所として活躍しました。門の両側には普通の桑の木(左)としたれ桑(右)が植えられているのは名残りといえます。

## ク、足助の町並み(国の重要伝統的建造物群保存地区)(豊田版⑯)



昔は、中馬街道、伊那街道、飯田街道といろいろな名前がありました。足助の町並みです。ここは、愛知県で初めて国の重要伝統的建造物群保存地区に指定されました。

白壁の土蔵や格子戸、黒い板壁などが昔の雰囲気を出しています。この地区でも養蚕は当然盛んでした。

(撮影、母)

## 矢中馬館(県指定有形文化財)(豊田版⑯)



←(撮影・母)

中馬館は昔の稻橋銀行足助支店でした。昭和57年に閉館して、その後、資料館になっています。中には、銀行だった名残りがあり、その中には、蚕種業とも取引があったということも資料として残っています。

## コ、旧豊田喜一郎邸(トヨタ鞍ヶ池記念館内)(豊田版⑰)

豊田自動織機を起業した豊田佐吉の長男で、トヨタ自動車の創業者である豊田喜一郎の別荘として、名古屋市にあり、

大家を1999(平成11)年に復元、移築したもので  
す。

(撮影・母)



## 5、豊田の遺産を探して(まとめ)

いよいよ、文化庁の日本遺産の申請書に似せた書類に書こうと思います。実際に日本遺産の勉強をして、豊田で日本遺産を作っていくたいと思つていきました。でも豊田には申請をするだけの条件が整つていませんでした。それは、文化庁のホームページにもある、「地域型での申請に当たつては、歴史文化基本構想又は歴史的風致維持向上計画を策定済みの市町村、もしくは世界文化遺産一覧表記さい案件又は世界遺産暫定一覧表記さい・候補案件を有する市町村であることが条件」を豊田市がクリアしていないからです。でも豊田市にはいいところがたくさんあるはず。私の住む豊田市の良さをもっといろんな角度から知つてほしい。だから本当の日本遺産にならなくても、私なりの日本遺産・豊田版ができればいい。そんな気持ちで今回豊田の遺産を探しました。母から豊田に移つていく中で一番豊田市らしい魅力がいっぽい時代はどこだろう?と文化財一覧を見たり、「豊田市のあゆみ」を読んだりしました。そうしたら、豊田市にしかない大切な時期は、やはりトヨタ自動車が来た時期だと私は思いました。平成生まれの私にとっては、半母町だったということも新しい発見だったけれど、その当時の母町にとつては本当に大きな出来事だったと思うし、トヨタ自動車の発展と共に豊田市になって、「世界のトヨタ」になっていったのです。でもその陰で今まで母を支えてきた地場産業は次々と姿を消していきました。そのことを私は決して忘れてはいけないと思いました。今回、史跡やその時代も生き抜いて、生き続ける工場をめぐりましたが、運のいいことに直接お話を聞ける機会にも恵まれました。訪ねただけではきっと分からなかつたであろう、いろんな人の思いに触れることができて、本当に良かったです。今回探そうと思った母から豊田になっていく時代の遺産を探すのは、実はとても大変でした。それは、今生きている人がその場所で生き続けるために建物などを壊

してその場所に新しい建物を作ってしまっているからです。だから、話として残っていても形が残っていません。本には残っていても本当の建物が残っていなかったのです。だから、これからもし、遺せる機会があるなら、私たち子どもが見て勉強するためにも遺してほしいと思いました。

夏休みの初めには中日新聞に「とよた世間遺産」の記事を見つけました。似たようなことをやっている人がいる！私もがんばるぞ！と気合が入って本格的な調べる学習に取りかかるようになりました。

(撮影:母)



そして夏休みの最後、文化財の確認のために、豊田市郷土資料館に問い合わせたとき、うれしいお話を聞くことができました。それは、豊田市が今年から「歴史文化基本構想」を作れるように、調査が始まったと言つお話をしています。これか進めば日本遺産も地域型で、豊田市だけで作っていくことが可能になります。郷土資料館の人は「調べたものをぜひ見せてくださいね」と言つてくれました。

今回、私は母の時代に蚕から糸を「つむいだ」ように、母の人たちがつむいていた心は中村寿一町長と豊田喜一郎氏が手を「おすぶ」ことで、今に「つながっている」と思いました。「つむぐ・おすぶ・つなぐ」という言葉は音は似ているようですが意味は全く違います。それでもつながって続していくのは、その土地の人たちの心の橋渡しかなければできなかつたことだと思います。それは史跡とかそういうもので残るのは難しいことかもしれません。でも、私たちが生きていくこと、生活していくことと同じだと思いました。

これで私の調べる学習は終わるけれど、ここから始まる豊田

市の日本遺産を楽しみにしています。

# できた！

## 私が考える

## 豊田の遺産

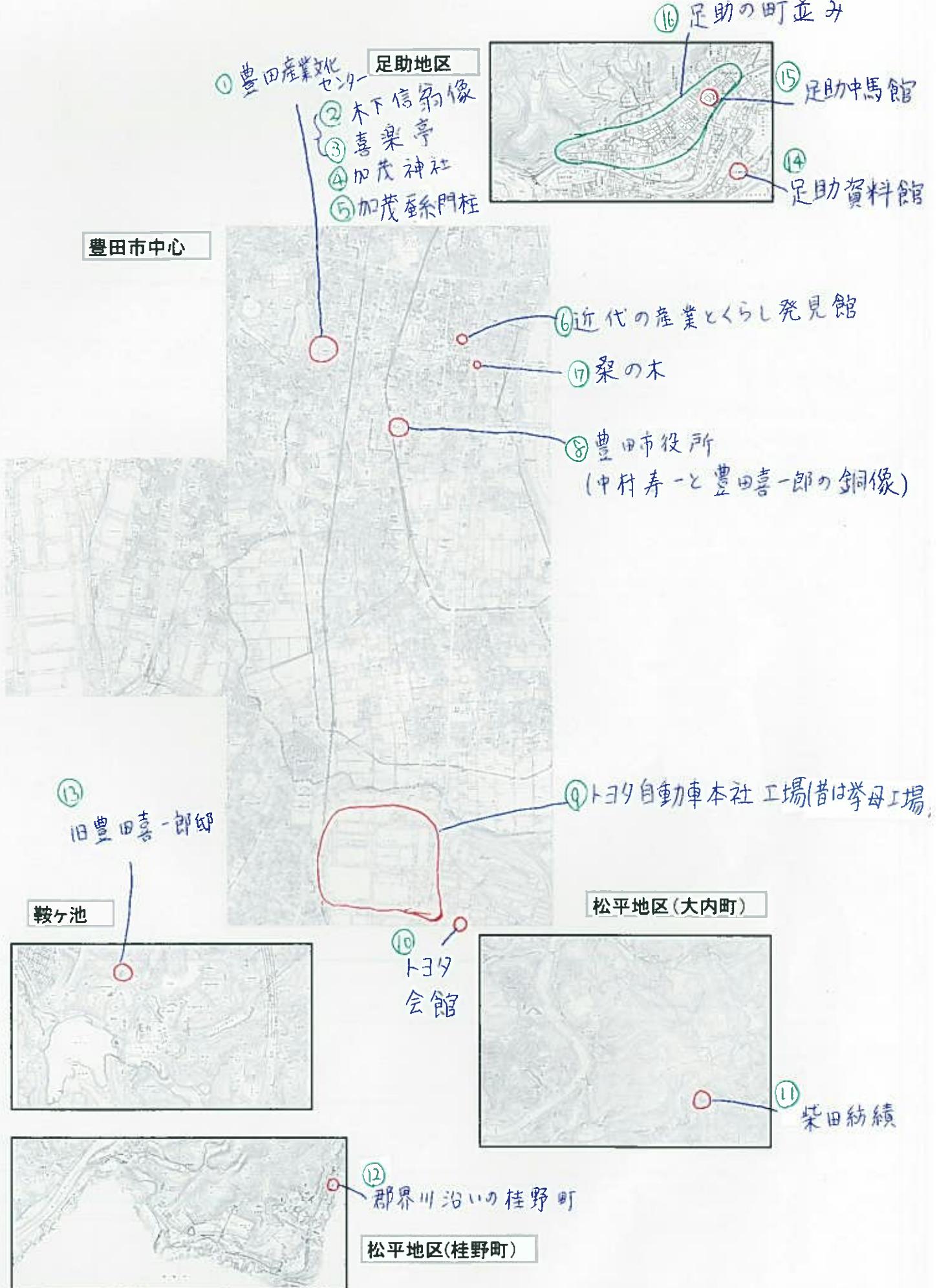


文化庁のホームページを参考にして  
日本遺産の申請書類を私な  
りに作ってみました。  
※文化庁の記入例は巻末資料に  
あります。

①申請者	渡邊 暖花(豊田市)	②タイプ	地域型 / シリアル型 もうすぐAになる
②タイトル	拳母が紡いで、思いを結ぶ。豊田へ繋ぐ職人の心～拳母から豊田への橋渡し～		
③ストーリーの概要(200字程度)	<p>豊田市には「世界のトヨタ」に成長した大企業があるが、初めから、豊田市にはトヨタがあったのか。昭和初期まで、拳母の地は養蚕や織維業が盛んで、"紡ぐ"ことで栄えてきた。しかし、世界恐慌による蚕糸恐慌を受け、拳母は産業のシフトを迫られる。その中で、拳母を支えたいと町長と企業家が手を"結ぶ"。地場産業を支えた職人の心は今度は自動車作りへと"繋がる"。</p> <p>なぜ拳母は豊田になれたのか。拳母の成長の過渡期を史跡や今も生きる生活の場から見つめる。</p>		
⑤担当者連絡先			
担当者氏名	渡邊 暖花		

## 市町村の位置図(地図等)





ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称	指定等の状況	ストーリーの中の位置づけ	文化財の所在地
①	豊田産業文化センター (加茂蚕糸跡地)	未指定	昭和56年まで加茂蚕糸として養蚕業とともに挙母町時代を支え続けた。養蚕農家の減少とともに操業を停止。跡地は産業文化センターと商工会議所になっている。	
②	木下信翁像 (産業文化センター内)	未指定	長野県出身の木下家であったが、加茂蚕糸を経営していた。豊田市名譽市民。	
③	喜楽亭 (産業文化センター隣接)	国登録有形文化財	神明町にあった料理旅館を移築した。戦前は加茂蚕糸、戦後はトヨタ自動車の利用が多かった。平成25年国の有形文化財に登録されている。	
④	加茂神社 (産業文化センター南)	未指定	豊田産業文化センター南にあるJA敷地内にある神社。加茂蚕糸の神社で毎年4月にお参りがある。	
⑤	加茂蚕糸門柱 (産業文化センター南)	未指定	豊田産業文化センター南にあるJA敷地の門柱となっている。	
⑥	近代の産業とくらし発見館	国登録有形文化財	挙母町で初めての蚕業取締所第九支所。大正10年に建て替えられた建物は当時としてはモダンな造りになっている。現在は養蚕をはじめとした近代の産業とくらし発見館となっている。	
⑦	桑の木	未指定	豊田市中心地に残っている桑の木。一面桑畑だったが、今では全く見られない。	
⑧	中村寿一、豊田喜一郎銅像 (豊田市役所前)	未指定	市役所前には豊田市名譽市民の中村寿一と豊田喜一郎の銅像がある。現在の豊田市の礎を作った人たちと言っていいだろう。	
⑨	トヨタ自動車本社(旧挙母工場)	未指定	論地ヶ原と言っていた荒れ地に豊田喜一郎がトヨタ自動車を持ってきた。	
⑩	トヨタ会館	未指定	トヨタ自動車の創業から今までの車の歴史や会社としての年表が展示されている。	
⑪	柴田紡績	未指定	松平地区の滝川沿いにある柴田紡績はあと3年で創業100年という老舗の紡績会社。現在も操業を続けるが、国道のバイパス工事でその姿を見られるのはあとわずかとのことです。	
⑫	郡界川沿いの桂野町	未指定	郡界川沿いもガラ紡で栄えた地域である。現在は紡績工場を営んでいる工場はわずかで、ほとんど残っていない。	
⑬	旧豊田喜一郎邸 (トヨタ鞍ヶ池記念館)	未指定	名古屋市にあった別荘を1999年に復元、移築した。設計をしたのは名古屋建築界の第一人者、鈴木禎次氏。	
⑭	足助資料館	未指定	養蚕取締所第四支所として大正12年に建てられた。白い壁や間取りは当時のままだが、現在は足助城からの出土品が展示されています。	
⑮	足助中馬館	県指定有形文化財	昭和52年まで営業していた稻橋銀行足助支店。現在は金融を中心とした展示になっているが、その展示品の中には、蚕種業者との取引の資料の展示もある。	
⑯	足助の町並み	国重要伝統的建造物群保存地区	塩の道など様々な名前を持つ、街道。その守られた町並みは愛知県で初めての重伝建となった。	

## 参考引用文献

著者名	書名	出版社	出版年	図書館名と請求記号
名古屋市立大学芸術工学部 鈴木賢一研究室	重伝建「足助の町並」を活用した学習ガイドブック	豊田市教育委員会 教育行政部 文化財課足助分室	2016	豊田市中央図書館 A231.2/ナコ
豊田市文化財保護審議会	豊田市文化財叢書第十一 豊田の史跡と文化財	豊田市教育委員会	1985	豊田市中央図書館 A232.4/トヨ
松平親氏公顕彰会	松平地区の指定文化財	豊田市教育委員会	2007	豊田市中央図書館 A709
豊田市郷土資料館	豊田市郷土資料館 特別展 新・豊田の文化財展	豊田市教育委員会	2006	豊田市中央図書館 709.15/トヨ
豊田市郷土資料館編	豊田市文化財叢書 31 豊田の文化財	豊田市教育委員会	2006	豊田市中央図書館 709/トヨ
豊田市教育委員会編	豊田市文化財叢書 第九 豊田の文化財	豊田市教育委員会	1984	豊田市中央図書館 A709/トヨ
豊田市史編さん委員会(編)	新修豊田市史概要版 豊田市のあゆみ	豊田市	2011	豊田市中央図書館 232.4/トヨ
豊田市郷土資料館	豊田市の礎を築いた 中村寿一伝	豊田市教育委員会	1998	豊田市中央図書館 A289/トヨ
豊田市のあゆみ委員会	豊田市を先駆けた人々 桧母と寿一と喜一郎と	豊田市教育委員会(郷土資料館)	2003	豊田市中央図書館 215.5/トヨ
杉本誠(監) 加茂蚕糸販売農業協同組合連合会 「加茂蚕糸の歩み」編集委員会	大正・昭和・平成3代 加茂蚕糸の歩み	加茂蚕糸販売農業協同組合連合会	1995	豊田市中央図書館 632.15/カモ
豊田市史編さん委員会(編)	新修豊田市史 22 別編 建築	豊田市	2016	豊田市中央図書館 A232.4/トヨ/22
豊田市近代の産業とくらし発見館	近代化遺産探訪案内	豊田市教育委員会	2007	豊田市中央図書館 A602/トヨ/

# 参考引用web

webページを制作した人、団体名	webページ名	webサイト名	URL	アクセス年月日
文化庁	日本遺産(Japan Heritage)」について	これまでに認定された「日本遺産(Japan Heritage)」一覧	<a href="http://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkazai/nihon_isan/ichiran.html">http://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkazai/nihon_isan/ichiran.html</a>	2016/4/3
文化庁	文化財	日本遺産(Japan Heritage)」について	<a href="http://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkazai/nihon_isan/">http://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkazai/nihon_isan/</a>	2016/4/4
文化庁	日本遺産(Japan Heritage)」について	パンフレット(PDF)	<a href="http://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkazai/nihon_isan/pdf/nihon_isan_pamphlet.pdf?#search=%E6%96%87%E5%C9%96%E5%BA%81+%E6%97%A5%E6%9C%AC%E9%81%BA%E7%94%A3">http://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkazai/nihon_isan/pdf/nihon_isan_pamphlet.pdf?#search=%E6%96%87%E5%C9%96%E5%BA%81+%E6%97%A5%E6%9C%AC%E9%81%BA%E7%94%A3</a>	2016/4/4
文化庁	日本遺産(Japan Heritage)」について	「日本遺産」ロゴマークについて	<a href="http://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkazai/nihon_isan/pdf/nihon_isan_logo.pdf">http://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkazai/nihon_isan/pdf/nihon_isan_logo.pdf</a>	2016/4/4
文化庁	日本遺産(Japan Heritage)」について	日本遺産(Japan Heritage)」ロゴマーク使用の手引き	<a href="http://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkazai/nihon_isan/pdf/nihon_logo_tebiki.pdf">http://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkazai/nihon_isan/pdf/nihon_logo_tebiki.pdf</a>	2016/7/25
滋賀県観光情報	スポット	沖島	<a href="http://www.omi8.com/annai/okishima.htm">http://www.omi8.com/annai/okishima.htm</a>	2016/8/1
滋賀県観光情報	スポット	伊崎寺	<a href="http://ja.biwako-visitors.jp/japan-heritage/spot/">http://ja.biwako-visitors.jp/japan-heritage/spot/</a>	2016/8/3
伊崎寺			<a href="http://www.isakiji.jp/">http://www.isakiji.jp/</a>	2016/8/3
豊田市広報		中村寿一物語 (YouTube映像)	<a href="https://www.youtube.com/watch?v=m4o0ACLs63Q">https://www.youtube.com/watch?v=m4o0ACLs63Q</a>	2016/8/6
信長公居城連携協議会	信長公の夢街道	信長おもてなし御膳	<a href="http://www.nobunagakou.jp/ホーム/信長おもてなし御膳/">http://www.nobunagakou.jp/ホーム/信長おもてなし御膳/</a>	2016/8/18
トヨタ自動車	企業情報 —トヨタの歴史	トヨタ自動車75年史	<a href="http://www.toyota.co.jp/jpn/company/history/75years/text/taking_on_the_automotive_business/chapter2/section4/item2.html">http://www.toyota.co.jp/jpn/company/history/75years/text/taking_on_the_automotive_business/chapter2/section4/item2.html</a>	2016/8/21
兵藤友博(立命館大学)	ようこそ兵藤研究室へ	私の故郷と生い立ち	<a href="http://www.ritsumei.ac.jp/~hyodot/semihomepage/announce_chimei.html">http://www.ritsumei.ac.jp/~hyodot/semihomepage/announce_chimei.html</a>	2016/8/21
公益財団法人 豊田市文化振興財団	産業文化センター	喜楽亭	<a href="http://www.cultoyota.or.jp/sisetuda/sanbu_kirakutei.html">http://www.cultoyota.or.jp/sisetuda/sanbu_kirakutei.html</a>	2016/8/26
愛知県		県内の市町村	<a href="http://www.pref.aichi.jp/site/userguide/link-citytown.html">http://www.pref.aichi.jp/site/userguide/link-citytown.html</a>	2016/8/29
とよた五平餅	エリア紹介	ようこそ豊田市へ！	<a href="http://www.toyota-go-hen.jp/area/area.html">http://www.toyota-go-hen.jp/area/area.html</a>	2016/8/29
豊田市	都市計画・建築・開発	豊田市基本図の提供	<a href="http://www.city.toyota.aichi.jp/jigousha/toshikeikaku/1007588/1007601.html">http://www.city.toyota.aichi.jp/jigousha/toshikeikaku/1007588/1007601.html</a>	2016/8/29
地域人文化学研究所	「チカクのトビラ」	お知らせ	<a href="http://catalyst-r.jimdo.com/2016/07/22/中日新聞豊田版-7月21日付で記事になりました/">http://catalyst-r.jimdo.com/2016/07/22/中日新聞豊田版-7月21日付で記事になりました/</a>	2016/8/30

参考資料 豊田市編

分類	資料を作成した団体名	資料名	制作年
資料	豊田市教育委員会	豊田市文化財マップ	2007
資料	豊田市近代の産業とくらし発見館	年表 加茂蚕糸の歩み	2007
資料	豊田市近代の産業とくらし発見館	とよた誕生秘話	2009
資料	豊田市近代の産業とくらし発見館	佐吉の発明・喜一郎の創業	2009
資料	豊田市近代の産業とくらし発見館	中村寿一の魅力	2009
資料	豊田市近代の産業とくらし発見館	われらの飛行機・拳母号 ～衣ヶ原飛行場とその時代～	2013
資料	豊田市近代の産業とくらし発見館	ぶらコロモ	2015
資料	豊田市近代の産業とくらし発見館	まゆまつり2015 加茂蚕糸～繭から糸へ～	2015
資料	名古屋商工会議所	産業観光のしおり	2016

## 参考資料 滋賀県編

分類	資料を作成した団体名	資料名	制作年
資料	(公社)びわこビジターブビューロー	滋賀たび2016spring	2016
資料	滋賀県観光交流局	1・2・サンッ！数字でめぐる滋賀の旅	2015
資料	滋賀県観光交流局	滋賀県観光マップ	2016
資料	(公社)びわこビジターブビューロー	日本遺産ぐるっとマップ	2015
資料	滋賀県商工観光労働部観光交流局	琵琶湖の水遺産がもたらす暮らし、庭園、食の旅	2015
資料	滋賀県商工観光労働部観光交流局	琵琶湖とその水辺景観	
資料	滋賀県商工観光労働部観光交流局	日本遺産滋賀	

## 参考資料 岐阜市編

分類	資料を作成した団体名	資料名	制作年
資料	岐阜市	2016ええとこ たんと 岐阜市	2015
資料	日本遺産「信長公のおもてなし」 岐阜市推進協議会	まっふる 岐阜市2016	2016
資料	岐阜市	長良川うかいミュージアム	
資料	日本遺産「信長公のおもてなし」 岐阜市推進協議会	日本遺産第1号 「信長公のおもてなし」が息づく 戦国城下町・岐阜	

## お世話になった方々



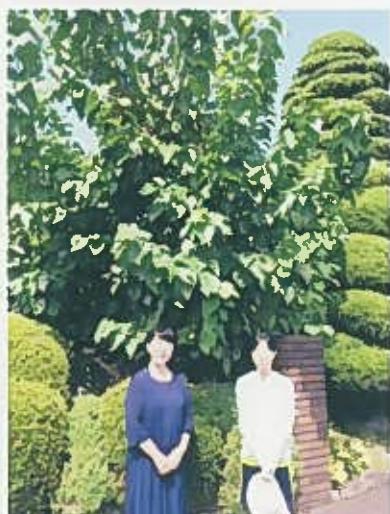
岐阜市教育委員会  
高橋さん



岐阜市教育委員会  
鳥本さん



柴田紡績  
柴田さん夫婦



加茂蚕糸、木下信さんの孫  
矢野さん

滋賀県文化財保護課の職員さん

滋賀県の観光交流局の職員さん

近代の産業とくらし発見館の職員さん

お話を聞かせてくださったみなさん

本当にありがとうございました